

高岡市立博物館に親しむ会

KA

JI

MARU

鍛冶丸

第18号

令和7年

3月



高岡市立博物館の被災資料レスキュー

～能登半島地震から想うこと～

高岡市立博物館主幹 仁ヶ竹 亮介

まずは「令和6年能登半島地震」に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災当時、当館は企画展「松原秀典展」（高岡出身の人気アニメーター）を開催中でした。確認のため元日の夜に職場に向かいますと、一番大きな被害は企画展示室の覗きケースが落下し、ガラスが破損していたことでした。幸い展示物は多少の折れがあった程度でした。他は各室の棚の資料やパネルなどが一部落下していましたが、幸い無事でした。しかし、落下防止などの耐震措置を本格的に講じる必要を認識しました。

当館は1951年築の本館と1970年築の新館という古い建築であり心配でしたが、壁に何ヶ所か亀裂が入っていた程度で、震度5強の揺れにしては軽微な被害といえるものでした。

そして、1月3日、企画展の復旧作業を経て、通常通り4日から無事に開館できました。特に企画展は限定カード目当てに、開館前から行列が来ていましたので混乱もなく本当によかったです。

その翌日、朝一番に伏木の旧家から電話があり、地震で土蔵が被害を受け、業者に蔵の解体を依頼したが、その前にもし博物館が要る物があれば、寄付するとのことでした。大変ありがたいことですが、寄付の打診は20数年間の学芸業務経験上いくらでもありましたが、被災資料レスキューは初めてという

ことに後から気づきました。お宅にお伺いして古文書一括、掛軸・屏風・扁額十数点などを寄付頂きました。

この伏木地区の被害は大きく、他にもこのようなお宅は多いのではないかと思いましたが、こちらから声を掛けるのも気が引けましたので、新聞数社に取材してもらいました。依頼が殺到するかなと思っていましたが、現時点でもわずか10件です。その内1件は、娘さんが被災資料レスキューを知っており、実家に聞いてくれて当館に連絡を頂いたことがきっかけでした。お伺いすると何点か貴重な資料は寄付頂きましたが、「博物館が古い書類などを集めているとは知らなかった。たくさんあったが、先日わざわざお金を払って処分してきたよ。」と笑いながら言われました。博物館の資料収集活動について、まだまだ知られていないこ



被災資料レスキューに伺った高岡市某家土蔵

とを痛感しました。

市民の皆様には何か古い書類・地図や写真等がありましたら、ぜひ博物館へご一報いただきますようお願い申し上げます。

当館では人的、予算的、そして収蔵スペースの不足が大きな問題となっています。特に収蔵スペースはかなり以前から既にパンク状態であり、深刻かつ喫緊の課題となっています。

そして、被災資料レスキューという観点でいえば、私は初体験であったように、完全に「平和ボケ」といいますか、大地震に慣れておらず、そのノウハウももたなかったことも問題でした。今回の地震をしっかり教訓として、耐震措置も含めて勉強、実践していきたいと思いました。

今後とも、当博物館に益々のご指導ご協力をお願い申し上げます。 (にがたけ・りょうすけ)

歴史地震に学ぶ 一とやまの災害とその教訓一

高岡市立博物館に親しむ会会員 島 寿男

あの日から5ヶ月余り過ぎた6月8日、郷土学習講座「歴史地震に学ぶ」が開催され参加。講師は伏木高校の高野靖彦校長。先生には息子が高校野球部でお世話になり、私も立山博物館で何度かお目にかかり、昨今は越中史壇会のお世話とか、安政飛越地震関係の本を上梓された事を聞き及んでおりました。

今回の能登半島地震だけでなく、先生は「歴史地震に学ぶ」こと、すなわち大地震は必ず繰り返し起きるが、地震が教えてくれた事、災害とその教訓の歴史を後世に伝えることがどんなにか大切な事と述べられました。越中における歴史地震として、「日本三代実録」に「水泉湧出」記述の貞観5年(863)の越中越後地震、あの三陸地方に大津波を起こし歴史に広く知られた貞観11年(869)貞観地震の6年前にあり、その他、戦国時代末期の天正13年(1586)の高岡市福岡の木舟城が埋没した天正地震、江戸時代末期の安政飛越地震。安政の大地震とは安政年間5年ほどの間に南海トラフなど、全国で大地震が6~7回頻発した総称で、個別で安政飛越地震(1858)と呼ぶそうです。今回の講演は、この飛越地震後の大洪水そして加賀藩の救援と復旧事業が中心でした。



私のふるさと高岡市伏木錦町の不遠寺の前に「旧石坂新村」の標柱が在り、語句に「十八世紀初頭以来一宮村古府村石坂地先の低湿地に開かれた新地、天保九年(1838)独立して一村となる。」とあります。

1月2日の朝、この傾いた標柱の前に立ち、目にした付近の惨状の呈は、実は166年前の安政飛越地震(1858)でも地割れ、砂吹き出しが起きていたのです。この語句の低湿地、すなわち小矢部川河口付近の沼地を埋め立てた為、液状化現象が起きたものと思われます。先生の話の地名から地盤の強弱が分かると、私なりに伏木の被害を検証してみました。伏木錦町(石坂町)の地名(字)は「御坊前」と「濃摩」と「狐島」です。濃摩は沼地で狐島は中洲の島でしょうか、沼地と島では被害が違いました。それに旧伏木村の本村の東に延びる5本の道路は

見た目では無傷でした。先人たちは村を興す時、地盤の固い所に先ずは家を建てそれから沼地を埋め立てながら新開地が出来たと思われます。昭和39年(1964)の新潟地震で県営アパートが将棋倒しで液状化被害が注目され、液状化現象の研究が開始されてから60年余りたったのに、あまり進んでいません。いや貞観5年(863)の時代から記述があるのに、旧河川跡や付近の液状化土地の強化は個人では出来ません。それと断層の調査、一層の研究を願います。

余談ですが、166年前に甚大な被害を受けた石坂新村の先人は被害にめげず、2年後の万延元年(1860)石坂町曳山(けんか山)を作りました。令和6年の祭り開催の賛否が分かれて、曳山関係者は大変な苦勞をされました。しかし苦難の時こそ、祭ほど地元を元気づけるものはありません。開催してよかったと歴史が証明してくれます。

(しま・ひさお)

特別展開山国師生誕 750 年記念 國泰寺宝物展と講演会を見て聞いて

高岡市立博物館に親しむ会会員 出町 睦子

今回は視点を変えて、前管長、稲葉心田老師をご存知の方もいらっしゃると思い、晩年1年間の老師の闘病生活に関わらせていただいた私の小さなエピソードを、お伝えしたいとペンを取りました。

老師は明治39年生まれ、昭和61年1月19日81歳でお亡くなりになりました。

脳梗塞でお倒れになった昭和59年から1年間、高岡で闘病生活にお入りになられました。お付きの僧は何もわからず、おたおたするばかり。老師は、ご自分の病気が納得出来ない事もありでした。やがて、お二人は立派な師弟関係となられ、弟子の僧は、老師を尊敬し大切にしました。

お見舞い客が多いと、老師・弟子の僧のお疲れは大変なものでした。面会の人には、堂々と背筋をまっすぐに、「ありがとうございます。だんだん良くなります。」と威風堂々と挨拶なさいました。

ある時、老師の留守番をお願いして、弟子の僧と食事に出かけた時、普段無口な弟子が、「僕にお話させてください。」と言われました。どんなにか孤独でつらかったのだと今でもその時の様子がありありと思い浮かびます。

私がある時、病室へお見舞いに行くと「窓を開けてごらん、おっかさんが畑を耕しているよ。」食べ物を持参すると「子供にはあるのか？」とお聞きに

なり、他人をお思いになる。お見舞いと用事が終わり「帰ります。」と挨拶すると、「またすぐ用事が終わったら帰っておいで。」と言われました。

夕食の介助をして差し上げますと、ゆっくりと沢山お食べになられ、ご機嫌よく過ごされておられました。ご病気を持ちながら、不平不満なく、病气している自分が申し訳ないと思っいらっしやいました。1年の入院生活の終わり頃、國泰寺のお手伝いのお婆さんには、「寒さはすぐやって来るから、ロッカーの肌着を渡してくれ。」と氣遣われました。出世を望む男性には「慌てるで、ないぞ。」と伝え、私には何も言う事なしと。何度お聞きしても言う事なしの一点張り。後に庵主様に理由をお聞きすると、子供の学校で先生から「お子さんには言う事なし。」不足なしの言葉だとおっしゃいました。ちゃんと食べて行けて安心している、そのままで良いよと。これが禅かな。

(でまち・むつこ)



稲葉心田書「南無阿弥陀佛」國泰寺蔵

～歩く博物館～ 「明治の大火をたどる」に参加して

令和6年(2024)6月27日(木)

高岡市立博物館に親しむ会会員 松田 喜美江

「歩く博物館」というタイトルに惹かれて博物館活動に今回初めて参加した。熱中症対策を万全にし、相本芳彦さんの軽妙な高岡弁の解説を聞きながら関野神社を出発した。



明治33年6月27日(124年前の今日)午後2時半、火元は二番町の桶職人宅。強い西風(風速12m)に煽られ、あっという間に火の海に……。

隣の永明寺、向いの大泉寺、御馬出町警察署、更に電信電話局へ。当時、二番町にあった市役所も被災し、全ての指揮命令系統が遮断される。高岡台地へも炎は上がり、関野神社、高岡大仏も焼失。火は定塚町にまで迫ったそうだ。当時の消防組は、江戸時代と大して変わらぬレベルで、破壊消火以外の術は無かったとの事。

相本さんの説明を聞きながら、西風に煽られ火の海になった町並みを、そして焼失場所を一ヶ所ずつ辿った。

坂下町信号の東西通りまで焼き尽くし、深夜鎮火。当時この通りの北側は沼地で民家は無く、終には燃える物が無く鎮火に至った、との説明。鎮火までの

約10時間、焼失面積は高岡市総面積の約60%、総人口の約40%が被災、死者7名。土蔵造りの家屋2軒のみが焼失を免れた“大火”であった。

二番町でのかんな屑に燃え移った火が、高岡台地を焼き尽くし、行き場のない民衆の右往左往する動線を自分の足で確認できた事はとても貴重な体験となった。

そしてもう一点、私にとって貴重な体験は「庄方用水」の確認だった。当時、高岡の町を迷路のように流れていた水路。京田辺りの分木工で三つに分岐した一つの庄方用水が、瑞龍寺の前を通り、あいの風鉄道の下をくぐり抜け、ここ白金町へ。暗渠となり姿を消してしまった庄方用水が、堀上町交差点南で僅かにその姿を現わす。その水流を目視にて確認。そして坂下町交差点では、暗渠の下を流れる水脈を、今度は耳で確認する。その先、庄方用水は源平板屋町辺りで、また分岐へ、との説明だった。

後日、この講座と一緒に参加した主人と共に、京田(新高岡駅)辺りの分木工へ足を運んだ(写真)。



京田 分木工にて (2024.07.09)

ここで庄方用水・国方用水・中方用水の三つの分岐をしっかりと確認。先日学んだ庄方用水へと流れを繋ぐ事ができた。

ここ京田分水工から始まる庄方用水が、当時は農業用水のみならず、お城の外堀に、そして坂下町の憩いの場に不可欠な用水であった事と実感した。

「歩いて、見て、感じて、歴史を学ぶ」普段私達

が何も気づかずに暮らしている町中、「歩く博物館」は、とても興味深い博物館への参加となった。

(まつだ・きみえ)



～走る博物館～

令和6年(2024)9月10日(火)

「金沢で高山右近の足跡を探る」に参加して

高岡市立博物館に親しむ会会員 森谷 寛光

東京駅23時発の夜行バスに乗り富山へ。早朝5時半着、博物館に向かった。元々自分は、鉄道マニアで、歴史とは程遠いのですが、富山・金沢方面には、よく出掛けていました。ある時、アピア夏祭りで相本芳彦さんに出逢い、話術の素晴らしさで、すっかりファンになりました。今回のツアーも、相本氏が講師という事で参加した次第です。

今回の歴史を巡るツアーは、自分にとって初めての経験でした。カトリック金沢教会のステンド

グラス、金沢21世紀美術館、石川県立美術館、いずれも素晴らしい所でした。石川県立美術館では、村瀬博春さんの解説で、九谷焼の説明を受け、素晴らしい作品に触れる事が出来て、良い勉強になりました。

金沢・高岡と巡り、歴史の重みと近代的な物が入り混じって魅力のある場所に行けた事、とても有意義な時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

(もりたに・ひろみつ)



～座る博物館～

令和6年(2024)10月18日(金)

「高岡で天神祭の暗号」を聴講して

高岡市立博物館に親しむ会会員 横山 和代

9月に走る博物館「金沢で高山右近の足跡を探る」に参加した時、フリーアナウンサーの相本芳彦さんから、来月は、高岡天神まつりと加賀のキリシタンについての講座があるとお聞きして、是非聴講したいと思いました。

まず最初に、相本さんより「生まれが富山県西部で現在も県西部に住んでおられる方、手を挙げて頂けませんか。」私もその中の一人で、約半分ぐらいの方がいらっしまったのでしょうか。お正月の床の間に、天神様菅原道真公の肖像画の掛軸を飾るのは、高岡を中心とした県西部が盛んで、富山と福井ぐらいしかないと聞き驚きました。元日、学問の神様の道真公に倣って勉学に励むようにと手を合わせ、1月24日に尾頭付の魚を供え、25日に軸を片付けるものと幼い頃より理解して来ました。その天神まつりがキリスト教信仰の思想に転換されていたとの事に驚嘆しました。マリア像が母性を感じさせる各種観音像に多用されていたように「天神」は天の神・天帝・ゼウスに喩えやすかったのではないかと。前田利家公鎧胴に「天満宮」の打ち出しが見られるなど前田家には、道真公の末裔と言う天神信仰があった。天神像の冠の巾子（冠の頂上後部に高く突き出ている部分）に十字または丁字を書き入れる古来の習慣がある。以上の事から加賀藩による特に、前田利長・利常・高山右近によって信仰の転換が行われたと考えられるとの事でした。

また、茶道において、客同士の心をひとつにする為に回し飲みする濃茶の緑と、「義人の血は3年を経て碧玉となる」故事のキリストの血に喩えら

れるワインの赤との関連性や茶会で出される焼き麩とキリストの体とする円形の薄いパン、ホスチアとの類似や千利休によってカトリックのミサの精神性が茶の湯の所作に組みこまれたのではないかなど、時空を超えたキリスト・菅原道真・千利休3人の義人の共通性はとても興味深い話でした。そしてもう一人の義人高山右近が、秀吉によるバテレン追放令により、明石城を剥奪された後、26年間を加賀藩で過ごし高岡城築城に関与したと考えると、二千近くいたキリスト教徒のうち、当時の新興都市高岡に移り住んだ人もいたのではないかと、石川県立美術館の村瀬博春氏が談じておられるそうです。

全国で5例しかない、国の重要有形・無形民俗文化財の両方に指定され、ユネスコ無形文化遺産にも登録された高岡御車山祭での御車山において、小馬出町御車山の古幕には大きな十字の意匠があり、海外で作られた緋ラシャレースの綴れ織りが



小馬出町御車山の古幕

使われている事や、二番町の御車山標旗に付けられたガラスビーズは、古いヨーロッパ製のロザリオの名残ではないか、通町の町紋は高山右近が使っていた家紋の七曜紋の「抜け七曜」であり、二番町と御馬出町の山車には、七曜を意味する「北斗七星」の軍配が付いている事など、キリスト教的意匠がうかがわれる事を知りました。

そして、金屋町の喜多家と釜本（江戸期は金森弥右衛門）家には、マリア観音と思われる秘仏があり、現在は飛見家に保管されているという事です。

いろいろな痕跡が出てきて、ますます関心を持ちました。もしかしたら、まだ発見されていないキリスト教的な意匠や遺物が、この高岡に眠っていると考えるのは、私だけでしょうか。今後、御車山奉曳(巡行)を眺めたり、土蔵造りの山町筋の天



マリア観音（個人蔵）

神祭を楽しみながら、高岡の歴史や文化・伝統の理解を深めていきたいと思います。そして、いつしか高山右近が高岡城築城に関与した資料が発見される事を祈っています。

（よこやま・かずよ）

博物館オリジナルの新商品のご案内

トートバッグのミニサイズを作成しました！

オリジナルトートバッグのミニサイズ（W30×H20×D10cm）を作りました。色は、紺、青、水色、カーキ、ベージュ、グレーの6色です。ミュージアムショップで販売中。（親しむ会会員 800円）



クリアファイルを作成しました！

図柄は、絵葉書「高岡古城公園」1908～17年頃 高岡市立博物館蔵 です。

令和7年度(2025)登録の全会員に配布いたします。（ミュージアムショップにて、1部200円にて販売）



絵葉書「高岡古城公園」

● 令和6年度 **高岡市立博物館に親しむ会 事業報告** ●

総会 4/18(木)13:30~14:00

講演会 「高岡城跡と城下町の魅力について」
 講師：田上 和彦さん（高岡市教育委員会文化財保護活用課 主任） 4/18(木)14:00~15:30

歩く博物館 一郷土の歴史・文化を訪ねるー〈歩く・走る・座る〉
 講師：相本芳彦さん(フリーアナウンサー)

第1回 歩く博物館「明治の大火をたどる」 6/27(木)
 第2回 走る博物館「金沢で高山右近の足跡を探る」 9/10(火)
 第3回 座る博物館「高岡で天神祭の暗号」 10/18(金)

会報「鍛冶丸」の作成

呈茶席 春4回 4/27(土)、5/18(土)、5/25(土)、6/1(土)
 秋4回 9/21(土)、9/28(土)、10/5(土)、10/19(土) いずれも11:00~15:00

版画講座 ー木版画で年賀状を作ろうー 11/20(水)、27(水)いずれも10:00~11:30

「古城公園展望台」屋上開放ボランティア 4/5(金)、6(土)、7(日)いずれも13:00~15:00

高岡古文書ボランティア (古文書の調査・整理)
 4/20、5/11、6/15、7/20、8/17、9/21、10/19、11/16、12/21、
 令和7年(2025)1/18、2/15、3/15…毎月第3土曜日を基本に実施 いずれも14:00~15:30
 ※高岡古文書ボランティアは来年度より親しむ会から博物館の管轄とする予定です。

● 令和7年度 **会員募集のご案内** ●

あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

- 主な活動**
- ・博物館の諸活動の協力、支援
 - ・高岡地域の歴史と文化に親しみ、互いに親睦を図る活動
 - ・ミュージアムショップの運営 ほか

■**年会費**

- ・一般会員 1口 1,000円
- ・賛助会員 1口 5,000円 *お一人さま何口でも可

- 会員の特典**
- ・企画展、特別展、講演会などのご案内
 - ・各種行事への参加及びご案内
 - ・会報「鍛冶丸」の送付・郷土学習講座等の受講料割引
 - ・図録の進呈（賛助会員のみ）

■**申込方法**

- 入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお越してください。入会申込書は「高岡市立博物館に親しむ会」のホームページに掲載しております。
- 郵便振込みをご利用の場合は、振込用紙『払込取扱票』に以下の項目をご記入の上、郵便局にてお振込みください。なお、振込手数料は各自でご負担をお願いいたします。*電信振替については、ホームページをご覧ください。

・口座記号：00760-8 ・口座番号：100749 ・加入者名：高岡市立博物館に親しむ会
 ・金額：年会費の金額 ・ご依頼人：郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、性別、年齢

親しむ会では、各種部会のメンバーを募集しています。

1. 研修部会 事業企画、行事等サポート
2. 広報部会 会報「鍛冶丸」の作成
3. ワークショップ部会 呈茶席運営・サポート



高岡市立博物館に親しむ会 会報「鍛冶丸」第18号

■発行日 令和7年(2025)3月15日
 ■編集 高岡市立博物館に親しむ会 広報部会
 (部会長：土肥、部会員：宇於崎、般若、松原、水上、山井、四津井)(五十音別)
 ■事務局 〒933-0044 高岡市古城1-5 高岡市立博物館内
 TEL 0766-20-1572 FAX 0766-20-1570
 URL <https://www.e-tmm.info/> E-mail info@e-tmm.info